

研究結果について

課題名	所属	研究責任者	職名	結果
電気けいれん療法におけるロクロニウム，スガマデクスを用いた麻酔管理に関する後方視的調査	麻酔科	吉崎 真依	助教	研究期間内に長崎大学病院麻酔科のプロトコールに準じてロクロニウム、スガマデクスを用いて電気けいれん療法が行われた症例において、有害事象（骨折、脱臼、呼吸器合併症）を認めた症例はなかった。この結果より、本プロトコールによって安全に電気けいれん療法を行える可能性が示唆されたが、プロトコールに準じて行われていない症例も多かった。これには、麻酔管理はそもそも麻酔担当医の裁量に任されていること、プロトコール運用開始直後が調査期間に含まれていることから当院麻酔科内でプロトコールの使用が十分に浸透していない時期を含んだことが影響したと考えられる。後続研究として、調査対象期間を延長しより多くの症例におけるプロトコール使用状況を確認する予定である。
重症熱性血小板減少症候群で出現する抗体が認識するウイルス抗原に関する研究	薬剤部	大山 要	教授	長崎大学病院では研究期間内に対象症例が発生せず、症例を集めることができなかった。また、研究参加施設でも研究期間内に対象症例が発生せず、症例を集めることができなかった。
腎細胞癌患者における血管内皮幹細胞の臨床病理学的役割の検討	泌尿器科・腎移植外科	今村 亮一	教授	研究の過程で思うような結果が得られず、中止した。
「難治性間質性膀胱炎に対するヘパリン-リドカイン膀胱内注入療法」	泌尿器科・腎移植外科	松尾 朋博	講師	7例の患者に施行し、大きな副作用なく終了したが、思うような結果が得られず研究中止となった。
ICT連携の検査データ共有による糖尿病と歯周治療の数値的関係の解明	口腔管理センター	山下 利佳	講師	予定症例数に達することが困難であったため、中止とした。
ステロイド骨粗鬆症予防投与に対して病棟薬剤師が与える影響に関する調査	薬剤部	橋詰 淳哉	薬剤師	短期入院のため、十分な解析ができなかった。
喘息発作の全国サーベイランスを介した呼吸器感染症の早期検出と流行把握の研究	小児科	佐々木 理代	助教	研究代表者の異動に伴う研究実施体制の変更により、研究が新規計画書に載せ替えとなった。そのため当院でも一旦研究終了とし新規の研究計画書として申請し直す。研究内容自体は同じ喘息発作のサーベイランス研究である。
薬剤関連顎骨壊死患者の栄養状態についての研究	口腔外科	緒方 絹子	助教	対照群のデータが十分に得られず、統計解析が困難であったため中止しました。
全身性エリテマトーデス患者におけるヒドロキシクロキンの有効性及び安全性の検討	医療教育開発センター	梅田 雅孝	助教	十分な症例数の集積が得られなかったため中止とした。
自閉スペクトラム症者の温冷覚、触覚における感覚特性の調査	精神神経科学	山本 直毅	助教	参加者の募集まで実施したが、COVID-19の蔓延が始まった影響か、参加者が全く集まらず、研究の実施が不可能であった。また、研究計画期間に科研費申請が通らず、研究の実施遂行に必要な資金の獲得もできなかった。
救急医療機関における自傷・自殺未遂のレジストリの運用およびデータ利活用	高度救命救急センター	田崎 修	教授	申請区分変更のための申請システム上での終了手続きのみ。研究は実施体制などの変更なく今後も継続していく。
日本低侵襲心臓手術学会データベースの構築（J-MICS-DBへのオンライン症例登録）	心臓血管外科学	三浦 崇	教授	学会のデータベースが稼働せず、研究中止となった。
病理診断用AIに関して病理医および既存のソフトウェアとの比較研究	情報病理学	福岡 順也	教授	担当者の退職により中止とした。
BioBank systemを用いた遺伝子解析の手法の確立とデジタルパソロジーとの統合	情報病理学	福岡 順也	教授	研究担当者の退職に伴い中止とした。
スペクトラリスOCT GMPE(緑内障プレミアムソフトウェア)を用いて解析した視神経乳頭緑網膜神経線維層厚の硝子体手術後の変化について	眼科・視覚科学	北岡 隆	教授	通院頻度、追加検査に要する時間のため、同意を得られる症例が少なかった。同意を得られてもドロップアウトのため、解析には至らなかった。
三歳児眼科健診におけるSpot Vision Screener検査不可者の検討	眼科・視覚科学	北岡 隆	教授	対象者がなく、今回の研究目的を達することは不可能と判断し、中止した。
ロボット支援下肺切除手術数増加に伴う問題点への対策と効率化に関する研究	呼吸器外科	永安 武	教授	研究は未実施であったため、また研究代表者の退職となったため。
ヒト頸動脈プラークの不安定化におけるNeutrophil extracellular traps及びPeptidyl arginine deiminase4の関与	脳神経外科学	氏福 健太	助教	当院で手術を受けて摘出された内頸動脈プラークについて、neutrophil extracellular trapsに着目した病理学的検討を企図した。初回申請者の高平、PIの出雲とともに転出し、人手不足のため研究実施が不可能になったため、研究者全員の同意を得て中止することとした。
肺癌等呼吸器系外来化学療法の現状 -第2期-	臨床研究センター	谷口 寛和	講師	本研究は先行研究「肺癌等呼吸器系外来化学療法の現状」の第2期として計画されたが、研究責任者の異動により引継ぎが出来ておらず、実施されていなかった。
新規成人T細胞白血病治療薬の創製を目指した非臨床研究	臨床検査科	長谷川 寛雄	准教授	新規のATL治療薬の創製を目指して、長崎大学にて樹立されたATL細胞株を用いて、新規治療薬の創製研究をおこない、Meiji Seikaファルマ株式会社が保有する非臨床評価系を評価する目的であったが、最終的に細胞株の授受には至らなかった。
Mineral Trioxide Aggregateのヒト歯根膜由来細胞における細胞増殖および硬組織形成誘導能への影響の検討	歯周歯内治療学	松裏 貴史	助教	実験がうまくいかず、別の実験を進めることとなったため。
バイオセラミックシーラーのヒト歯根膜由来細胞における細胞増殖および硬組織形成誘導能への影響の検討	歯周歯内治療学	松裏 貴史	助教	細胞が全滅して解析ができないため一旦中止することとなった。

長崎県におけるAYA世代の肺癌の実態、治療・予後についての解析	臨床研究センター	竹本 真之輔	講師	本研究は長崎県がん登録評価事業として登録された肺癌患者の情報をもとに解析を行うことが目的であったが、研究責任者の急逝および実務担当者の異動により引継ぎが出来ておらず、実施されていなかった。
肺アスペルギルス症患者における末梢血免疫エフェクター細胞の発現評価	呼吸器内科	高園 貴弘	准教授	目標数に到達可能と思われる適当な症例がなかったことから実施が困難であった。
口腔蛍光観察装置に人工知能を応用するための診断基準の策定	口腔診断・情報科学	角 美佐	教授	本研究を実施していた研究医師の見立英史先生が他院へ異動し、継続研修が未受講で当院での研究実施資格を喪失し研究継続が困難なため、中止および終了とする。
腎細胞癌患者におけるInterleukin-18およびNatural killer cellの臨床病理学的役割の検討	泌尿器科・腎移植外科	今村 亮一	教授	研究の過程で思うような結果が得られず、中止した。
硝子体手術における自己血硝子体注入による後部硝子体膜除去の有効性の検討	眼科	北岡 隆	教授	本研究に参加できる症例を見つけることができず中止した。
長崎大学病院におけるパッチテストの陽性率の年次的推移に関する研究	皮膚科・アレルギー科	田崎 典子	医員	171例までデータ入力したが、臨床業務に忙殺され、研究を中止せざるをえなくなった。
子宮頸がん密封小線源治療に対する疼痛コントロールの必要性の検討	麻酔科	石井 浩二	助教	子宮頸がん密封小線源治療時に鎮静を行うことにより痛みのために治療中断となる患者を減らすことができるか検討した。50例まで症例を収集したが、統計学的優位差が得られなかったため中止とした。
C型慢性肝疾患を対象とした経口剤療法の有効性と副作用についての検証	消化器内科	中尾 一彦	教授	本研究は、前回の実施状況報告書において報告のように、研究自体が実施されておりません（同意書なども取っていません）。前任者の実施状況報告では、実施症例数を200例としていたが誤りであり、通常診療においてIFN-free DAA製剤が導入された症例数（約200例）が記載されているものと思われます。 このため、本研究については、中止と致します。尚、本研究における情報収集、解析、公表は行っていません。